

令和3年度

授業改善推進プラン

令和3年11月30日

多摩市立多摩永山中学校

分析と改善策

国語 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	漢字の読み書きを向上させること。 辞書の積極的な併用。基礎的な文法力の定着。 読解のポイントに対する意識の向上。 作文構成力の基本を定着させること。	テーマに見合う内容を時間内に書き上げること。	全体的に関心は高いが自主的な取り組みの質を更に向上させること。 発表するときの姿勢・態度。発表内容の質を高めること。
【総合分析】			
<ul style="list-style-type: none"> 一年生は発表力、討論力の向上を図る必要がある。 二年生では作文力の向上を図る必要がある。 三年生は読解力の向上に努める。問題形式のプリント学習や作文に取り組む機会を増やす。テーマに見合う作文を時間内に書き上げる機会を設ける。 			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> 発表力、討論力に関しては、人前で話す方法を徹底するため、スピーチやビブリオバトル、ディベートの回数を増やす。 作文の段落構成を意識して書かせることにより、より質の高い内容の文章を書けるようにする。 基礎的な学習に留意させ、漢字の書き取りや意味調べなど細かい点の指導にも気を配る。 問題形式のプリント学習や作文に取り組む機会を増やす。 テーマに見合う作文を時間内に書き上げる機会を設ける。 タブレット端末、ロイロノートを有効活用し、主体性の向上に努める。 全学年で辞書を利用する機会を増やす。 司書と協力し、図書室を有効利用していく。 タブレット端末導入により書く意識の低下が懸念される。デジタルとアナログのバランスに留意する。 		<ul style="list-style-type: none"> 発表に際しては、マッピングシートやプロットを用意して生徒に選択させる。 さまざまな字数の作文を書く。 読書活動や調べ学習の充実を図るため、司書と協力をしながら図書室を活用する。 	
【検証】			

社会 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	単純に用語を覚えているだけでなく、その意味内容や背景も知識として定着させたい。	<ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的な視点から考え、論理的に自分の言葉で表現する力を高めたい。 資料から有用な情報を読み取り活用する力をさらに高めていきたい。 	全体的に関心は高いが、主体的に学ぶ意欲をさらに向上させたい。
【総合分析】			
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と身の回りの事象とを結びつけて、自ら発展的に追究したいという意欲を導き出し、持続可能な社会を築く資質を育成する必要がある。 			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> 統計資料やグラフ、地図、年表などの資料やワークシート等を用い主体的に調べたり考えたりする活動を通して、資料活用の技能や思考力・判断力を高める。 資料に基づく実証により、多面的・多角的な視点から社会的事象をとらえる力を育成する。 グループワークやレポートの作成等の活動を効果的に取り入れることにより、自分の考えをよりよく相手に伝える経験を積み、論理的に意見をまとめて表現する力を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の復習や関心のあることをさらに深く調べてまとめる課題に取り組む。 適切な物事の調査方法を身につけるために、学校司書と連携し図書資料を活用する。 	
【検証】			

数学 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識はおおむね理解できている。用語の理解にとどまらず、活用できるようにすることが課題である。 基礎的・基本的な計算についてはおおむね身に付いている。定着が不十分な生徒の計算力を高めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本の知識・技能を活用する問題や応用問題において、問題を読み取ることや解き方を考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的活動について関心は高いが、知識・技能を活用して、粘り強く考えて取り組み、問題を解決しようとする意識を高めることが課題である。
【総合分析】			
<ul style="list-style-type: none"> 数学の基本的な知識・技能を身に付け、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決する力を伸ばし、思考力・判断力・表現力およびそれらを生かす力を育成する。 			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートやICT機器を活用し、自分の学習の振り返りの機会を設ける。 問題集やプリント等の課題を設定し、未提出の生徒には個別に声をかける。 机間指導を充実させ、授業に集中できない生徒や苦手意識のある生徒にも配慮した授業を行う。 習熟度別少人数指導を生かし、個々の学力に応じた目標及び授業展開を工夫する。全コースにおいて引き続き基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、それらを活用して問題解決をする場面を取り入れる。特に、標準、発展コースでは数学的な見方・考え方を活用する力を育成するための問題設定および教材の工夫をする。その際、生徒が主体的・協動的に学び合う機会を設ける。 小テスト等を利用して、基本的な知識や技能が習得できているかを随時確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 小テストや宿題を活用し、基本的な知識や技能の定着をはかる。 必要に応じて、定期テスト前に学習教室を実施し、既習事項の確認や質問等に個別に対応する機会を設ける。 発展コースでは、必要に応じて教科書レベル以上の発展的な課題を提示し、数学的な見方・考え方を伸ばす。 	
【検証】			

理科 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	<p>具体的な身の回りの事象と結びつけることにより、より深い理解を目指していく。</p>	<p>実験結果を考察し、考えをまとめることに対し慣れてきたが、論理的に考えを組み立てられるようになるにはさらなる習熟が必要である。実験器具の取り扱いについてはほぼ行うことができる。安全面に対する想像力を高める必要があると考える。</p>	<p>全体的に授業、実験、観察に対し積極的・協力的に取り組んでいる。難しい問題に対しても、あきらめず挑戦する意識を高めることが課題である。</p>
【総合分析】			
<p>課題を工夫しながら解決したり、実験・観察結果を分析して解釈したりする活動を増やし、生徒一人ひとりの科学的に探求する力の育成を目指す。</p>			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> 少人数グループによる話し合い、ICT機器を活用した個々の意見の共有、及び発表の活動を多く取り入れ、言語活動の充実を図るとともに、科学的な思考力、表現力の向上を図る。 実験・観察を可能な限り多く取り入れ、実物を見せると同時に身の回りの事象と結びつけ、理科の面白さや、有用性を実感できる授業を展開していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに復習の時間を確保し、学習内容の定着を図る。 単元末に、既習事項を活用して考える発展的な内容の課題を組み込み、科学的思考力・表現力の向上を図る。 	
【検証】			

外国語（英語） 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	十分に満足できる
課題点	学習内容の理解はできているが、発信する力に関する定着の度合いに差がある。	もっと多くのまとまった英文を書いたりまとまった英文を話したりする必要がある。 まとまった英文の内容から必要な情報を読み取ったり、聞き取ったりする力をさらに高める必要がある。	関心は高いが、自信をもって取り組む姿勢がさらに必要である。
【総合分析】			
<ul style="list-style-type: none"> 知識として理解していても、自信のなさから積極的な活用につながっていない。書く教材、話す教材の研究とALTの活用に重点をおく必要がある。 一定量まとまった英文を発信したり、受信したりする点で、量の多さから辟易する様子が見られる。帯活動を通して、負担感なく取り組めるようにする必要がある。 			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> ペア活動やグループ活動での助け合いを通して、まとまった英文を書けるような活動をする。 ALTを活用し、パフォーマンステストを年複数回実施する。 一定量の英文を読んで内容を理解する帯活動を工夫する。 スムーズなやり取りを目標に、会話練習シートの活動を継続して行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた読解教材に取り組む機会をつくる。 定期テストの前に、質問教室を実施する。 朝学習を活用して、基礎的知識の定着を図る。 	
【検証】			

音楽 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	作曲者の時代背景や人物像において興味を持って理解している。音楽を形づくっている要素の理解をさらに深め伸ばしていきたい。正しい発声法が安定してきている。	音楽を形づくっている要素について理解し、それを活かして自分なりに思考しどのように表現、工夫するかが難しい。変声期を迎えた生徒に対して、表現指導の工夫が必要である。	全体的に関心は高く、主体的に活動できる。歌唱活動や鑑賞に関して、受け身の取り組みの生徒へ指導の工夫が必要である。
【総合分析】			
<ul style="list-style-type: none"> 表現活動に対して自信の無い生徒が、少しずつ自分の表現を伸ばしていけるように活動内容の工夫を行う必要がある。 自分で考えた表現を技能として実行できるスキルを身に付けさせる。 			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> 表現の苦手な生徒が自分の表現に自信が持てるように活動の内容の工夫や、言葉かけを大切にしていく。 自分が感じたことを表現できるように、自分のイメージや思いをタブレット端末を用いて伝えあったり、表現を撮影して共有することにより、他者の意図に共感することができるように、まずは小集団（パートごと）の活動を授業に多く取り入れていく。 		<ul style="list-style-type: none"> パート活動で、表現の苦手な生徒の個別指導を実施していく。 より自分の表現を磨いていけるように表現するための基礎基本の知識・理解を徹底する。 	
【検証】			

美術 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
到達度	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	基本的な知識と技能は身につけているものもいるが、特に着彩については全体的にまだ不十分な点がある。	個々の発想に加え、他者からの発想も取り入れるようにしたい。語彙力を増やし、言葉による表現活動の場を増やし、描写力をつける。	全体的に関心は高く、自主的に取り組もうとしているが、計画性に欠け作品完成への見通しをもつことができない生徒もいる。
【総合分析】			
<ul style="list-style-type: none"> 3年間通して着彩に関する基本的な技術を応用し表現の工夫をさせる課題を設定していく。 各課題で、個々に制作目標をつくり見通す力を養っていく。 			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> 「わかる」「できる」とより実感でき、計画的に物事を進めるため、スモールステップ方式で指導を行っていく。 発想のための資料の充実を図る（iPadや図書室利用など）。 集中力をつけるために5分スケッチを開始し徐々に効果は表れているので継続する。 描写力をつけるために、アイデアスケッチだけではなく言葉でも、表現するようにする。 各単元の目標や毎時間の予定を明確に記し、振り返る自己評価表を充実させ、アドバイスを適宜入れていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、放課後の指導をする。 基礎的な知識については授業内で繰り返し扱い、定着できるようにする。 	
【検証】			

保健体育 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	技を身に付けようと積極的に活動することができている。身に付けた技を試合や発表を通して発展させることもできている。技能と理論の一体化に課題が見られる。実践的・体験的な学習を通して、自立した生活に必要な知識を身に付けさせる。	得た知識等を基に、自己の課題を発見し、課題解決に向けた工夫をしようとする姿は見られるが、自己の考えたことを他者に伝えらることに課題が見られる。考えをまとめ、表現する場面設定等の工夫が必要である。	全体的に運動への関心は高く、自主的に取り組み、運動を楽しもうとしている。受け身の生徒に対する工夫が必要である。
【総合分析】			
<ul style="list-style-type: none"> 運動への関心を高め、さらなる技能向上を目指す上で、オリンピックに関する話題を取り入れながらそれぞれの種目を学ばせることを意識した指導をしていく。 言語活動を充実させ、自分の考えを言葉にして伝えられるスキルを身に付けさせる。 			
【改善策】		【補充・発展指導】	
<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を通して、自己やグループの課題に気付き、解決方法を互に見つけながら学習ができるようにしていく。その際にiPadを用いて、自身の動きを撮影し、客観的に捉え課題を把握できるような工夫をする。 個人の学習カード、チームの学習カード等を活用し、毎時間目標、課題を設定し、解決に向けて主体的に取り組めるようにする。授業後には課題解決に向けた工夫等を記述させる。 保健分野との関連を意識し、心と体を一体として捉えた授業を展開し、実生活に生かせるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 夏季水泳指導を実施し、個に応じた補充・発展指導を行う。 グループ活動のなかで、個別に声かけを積極的に行っていく。 	
【検証】			

技術・家庭科 内容及び観点別の分析			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	実践的・体験的な学習を通して、自立した生活に必要な基本的な知識をさらに身に付ける必要がある。ICT機器や小テストや学習ノートをうまく取り入れることで、知識が定着する傾向があるので続けていく。	生徒自らが生活や技術に関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動することが課題である。生活や社会の中から問題を見だし、課題をもって考え、解決する力をはぐくむために自分や社会にとって解決すべき課題を設定することが重要である。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている。自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整することができるようになるとなおよい。
【総合分析】 <ul style="list-style-type: none"> 技術面では、一人一人の進度に気を配り声かけを行うなど、学習支援の方法を工夫する。 実習では常に安全な作業ができるよう、教室環境を整え、計画的に授業を進める。 			
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> 実生活と結びついた知識や技術を習得することで、自分自身の生活に意欲的に生かそうとする態度を育てる。その際には自分なりの工夫を多面的・多角的に考えさせ、本当にこれでよいのか、実生活の振り返りを通して常に考えられるような授業に努める。 班活動など小集団での話し合いや助け合い活動を通して、思考・判断したことを表現する場面の設定を増やす。 ポートフォリオやICT機器を効果的に取り入れ、自分の学習の進め方について振り返る機会を設ける。 		【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習形態に努め、興味関心に応じた取り組みができるよう、課題の出し方を工夫する。 タブレット端末などのICT機器を効果的に活用しながら創意工夫や技能に優れている生徒の作品を見せ、多面的・多角的に考えさせるなど学習意欲を高められるようにする。 	
【検証】			